

コラム20: 旧家の雛祭り

早春の候となり、3月になって一気に春がやってきた、という感じですね。3月3日が過ぎ、いささか遅れてしまった話題になったのですが、今年も福山の鞆の浦に行ってきました。雛飾り作業をしたのは、もう1か月以上も前の、厳寒期でしたからね。もう10年も続けていることなのですが、初期の頃は、民俗資料館でしたが、現在は「太田家住宅」という旧家に雛飾りをしています。

今年の雛飾りのメインテーマは「百歳雛」という、爺さんと婆さんの雛人形です。太田家の一番奥にある「新蔵」と呼ばれる所に飾っています。これには、去年の3月と7月に、相次いで亡くなった私と妻の父を偲び、ともに白髪になるまで仲良く生きたい、という私たちの願いも込められています。ほかには、樹脂粘土で作られた「年寄り雛」や「赤ちゃん雛」といった創作人形、さらには、「ドラえもん」などのアニメキャラクター雛、紙芝居コーナーなど、老若男女誰でも楽しめる、盛りだくさんの内容にしました。



ここで雛人形の飾られている「太田家住宅」について紹介しましょう。400坪の敷地をもつ大きな旧家で、今から260年前の江戸中期の建造物です。平成3年に国の重要文化財に指定され、大変な経費をかけて改修工事を行った後、11年前より一般公開されています。もともとは中村家という保命酒(ほうめいしゅ)の造り酒屋で、のちに太田家が引き継ぎ、明治37年まで酒づくりをしていたようです。中には沢山の座敷のある母屋とともに、米蔵や釜屋、酒をつくる南蔵、発送する新蔵など7つの蔵があります。



保命酒というのは、江戸時代に靱の浦で生まれた酒で、もち米と米麴に焼酎を加え、熟成させた後に漢方薬を加え、「絞り機」にかけ圧縮して、1か月程度ねかせて造られます。飲んでみると、甘口でまろやかな舌触り、という感じでしょうか。これなら下戸の人でもいけそうです。甘味はあっても、砂糖は一切使用していないとのことですよ。

江戸時代当時に、対等な友好関係にあった朝鮮王朝からの使節団である「朝鮮通信使」が、「潮待ち」の港町である靱の浦にたびたび立ち寄り、靱の景観の美しさとともに、保命酒のおいしさを称えています。曰く「その効用は、寒い時には寒さを除き、暑い時には暑さを追いやって、愁い苦しむ境遇から抜け出させてくれる。長い道のりをやってきたのは、この酒を味わうためだったと言おう」……最大級の賛辞ではないですか。

前述したように、酒を造る過程で、テコを使った圧縮機を使い、石のおもりと人の体重で酒を搾るのですが、当時の人力に頼った大きな道具が太田家の蔵の中に、そのまま保存されています。その「搾り機」の側の壁に貼ってあったのが、下の絵図です。ふんどし姿で太い縄を引っ張る男、絞った酒を桶に注ぐ男一彼らの掛け声と汗、そして蔵の中一杯にこもる酒の匂いと熱気が伝わってきそうですね。



それから約百年余りの時間が流れ、蔵の中は、ひっそりと静まり返り、時折まだ冷たい春の風が吹き込んできます。そこにあるのは、ズラリと並んだ酒を醸造するための大きな瓶(カメ)、酒造りに使う木製の桶や容器、そして石と綱の下がった大きな搾り機。そしてこの時期だけは、いたるところで雛人形が、にぎやかに遊んでいるのですよ。屋敷の中では、それぞれの部屋の隅で、江戸や明治の時代に生まれた「お雛様」が、元の住み家に戻ったかのように、幸せそうに微笑んでいます……



◎太田住宅の雛祭りは2月7日から3月31日までやっています。まだ間に合いますよ。

「あの蔵で、汗まみれになって働いとった男達は、そこに雛人形が飾られるなんちゅうことは、想像もせんかったろうのう」

(13・3・7)